様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６６３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ１１３７４

研究課題名（和文）訪日外国人が見た近世日本のスポーツ　―幕末～明治初期の見聞録を中心に―

研究課題名（英文）Sport in early modern Japan as seen by foreigners visiting Japan : Focus on source data observational records in the period from the end of the Edo era to the beginning of the Meiji era

研究代表者
谷釜　尋徳（Tanigama, Hironori）

東洋大学・法学部・教授

研究者番号：４０５２７９３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、幕末～明治初期の訪日外国人の見聞録を史料として、近世日本のスポーツの実際を明らかにすることを目的に行われた。
訪日外国人の見聞録には、彼らの実体験に基づく客観的な情報が高い精度で記録され、近世の日本人が生き生きとスポーツを楽しむ姿が事細かに活写されていた。外国人が見た日本人のスポーツには、剣術稽古、馬術訓練、打毬、勧進相撲、曲独楽、歌舞伎、徒歩旅行などが含まれる。本研究によって、近代化以前の日本人のスポーツ活動の一端が明らかになり、今日に連なる日本的なスポーツの原風景を多少なりとも浮かび上がらせることができたと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来の研究では十分に解明されてこなかった近世日本のスポーツ史について、訪日外国人の見聞録を用いて客観的な視点から迫ったところに、本研究の学術的な意義があると考える。
近代化以前の日本に存在した各種のスポーツを取り上げ、史料にもとづく詳細な考察を行ったことで、「日本人にとってスポーツとは何なのか」という重要なテーマに接近することができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the actual state of sports in Japan in the early modern period, using as source data observational records of foreigners visiting Japan from the end of the Edo period to the early Meiji period.
The reports of foreign visitors to Japan clearly record objective information based on their actual experiences, and describe in detail how Japanese people enjoyed sports in the early modern period. Japanese sports seen by visiting foreigners in Japan included swordsmanship, horsemanship, dakyu, sumo, trick-spinning, kabuki, and walking tours. We believe that this research has revealed some aspects of sports played by Japanese people before modernization, and that we have found the original landscape of Japanese-style sports that is connected to today.

研究分野：スポーツ史

キーワード：幕末　訪日外国人　剣術　馬術　打毬　勧進相撲　曲独楽　徒歩旅行

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本のスポーツ史上、近世は都市の庶民層が武士や貴族を押しのけて「身体運動を伴う遊戯」（＝スポーツ）を楽しむようになった注目すべき時代である。しかし、従来の近世日本のスポーツ史研究は、出来事を編年的に整理したものや時代の概説にとどまり、当時のスポーツの実情は詳しくわかっておらず、研究が進展していないのが実情である。

近世スポーツ史のこうした研究動向は、日本人の手によって記された史料が不足していることと関係している。近世後期の日本では庶民の識字率が飛躍的に向上したものの、江戸では度重なる火災、近代以降の震災・戦火によって史料の散逸や焼失が起こってしまった。そのため、近世のスポーツ史を概説することはできても、史料に基いて詳細に語ることは難しかったのである。

２．研究の目的

本研究は、幕末～明治初期の訪日外国人の見聞録を貴重な時代の証言として用いて、当時の日本人によるスポーツの実際を明らかにすることを目的に行われた。これによって、日本スポーツ史では空洞になっていた近世という時代を、史料に基づいて描き出すことができると考えたからである。

３．研究の方法

幕末～明治初期の訪日外国人が書き残した見聞録を収集し、一点ずつ分析した。彼ら外国人は、西洋化以前の日本人の生活実態を観察し、時としてスポーツについても記録しているため、見聞録の活用によって近世社会のスポーツの実像に客観的な視点から迫ることができる。

４．研究成果

（１）アンベールがみた江戸のスポーツ

スイスの使節団代表として幕末期に日本を訪れたエメ・アンベールの見聞録『日本図絵』を手掛かりに、1863～1864 年の江戸における武士の武術稽古について考察した。アンベールが見聞録の中で多くの印象を書き残したのが、武士の剣術稽古についてである。アンベールの記述からは、防具が発達した近世後期の剣術稽古の模様を知ることができた。彼が見た武士の剣術試合の記録は、外国人の客観的な視点からの観戦記として価値が高い。また、アンベールの著作に掲載された挿絵には、武士が神社の境内を道場として稽古に励む様子が描かれていた。アンベールは、武士の馬術訓練を見聞し、騎乗する武士のフォームまでを詳細に記録した。江戸市中の流行を敏感に察知していた彼は、江戸市中で興行されていた曲馬という見世物についても書き残している。アンベールの記述は、武士階級による馬術訓練場の存在にまで及んでいた。とくに、武士の馬術稽古が庶民と交わる地域内で実施されていたことは、彼の眼を驚かせたようである。アンベールの眼差しは、薙刀の稽古に励む女性の姿を捉えていた。この稽古は非公開で行われていたため、アンベールは女性の稽古姿を詳しく観察することはできなかったが、その見聞録は知られざる江戸の女性スポーツの一端を描写した貴重な証言である。

（２）オールコックがみた江戸のスポーツ

安政 6（1859）年に来日した初代英国公使のラザフォード・オールコックの見聞録“The capital of the tycoon”を通して、幕末期における日本のスポーツの実像を考察した。史料を分析したところ、オールコックは、打毬に勤しむ江戸の武士、回向院の勧進相撲、アメリカ公使の邸宅の曲独楽、旅行中の大坂の歌舞伎を観察したことがわかった。その卓越した眼差しは、各種スポーツのルールや技術、観客を楽しませる仕掛けに至るまで、かなり正確に捉えていた。

（３）訪日外国人の見聞録にみる近世日本の旅文化

本研究の過程で収集した多くの訪日外国人の見聞録を通して、近世日本の旅文化を考察した。訪日外国人は、日本という異文化世界を驚きの目をもって観察し、街道の安全性と貧困な旅行者への施行行為、街道の設備や道普請、街道筋の茶屋の実際、旅の難所としての関所と大河の通行方法など、事細かに描写していた。日本人にとっては自明の事柄として見過ごされがちな街道筋の事物も、外国人にとっては興味の的となった。日本の旅人の服装を分析した者もいたし、さらには日本人旅行者の時間観念を気に留めた者までいた。

（４）ペリー来航と江戸相撲

幕末期のペリー来航時に行われた江戸の力士たちによる相撲実演について、ペリー艦隊側が記した見聞録と日本側に残された史料の比較検討を行った。ペリー艦隊の公式遠征記録として”Narrative of the expedition of an American squadron to the China Seas and Japan：Performed in the years 1852・1853 and 1854”、ウィリアムズの随行日記として”A journal of the Perry expedition to Japan (1853-1854)”を用いた。史料の分析および比較検討の結

果、ペリー来航とは、日米双方の者同士が、スポーツを通じて異文化を認知する重要な機会を提供するもであったことが明らかになった。

これまでの 3 年間におよぶ研究により、訪日外国人の見聞録には、彼らの実体験に基づく客観的な情報が高い精度で記録され、近世の日本人が生き生きとスポーツを楽しむ姿が事細かに活写されていることが確認された。本研究によって、近代化以前の日本人のスポーツ活動の一端が明らかになり、今日に連なる日本的なスポーツの原風景を多少なりとも浮かび上がらせることができたと考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 谷釜 尋徳	４．巻 67巻1号
２．論文標題 安政元年のペリー来航時の相撲実演について ―江戸の相撲取たちの動向を中心に―	５．発行年 2023年
３．雑誌名 東洋法学	６．最初と最後の頁 1-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 谷釜 尋徳	４．巻 73巻1号
２．論文標題 前近代（江戸時代以前）日本のスポーツ観の変遷	５．発行年 2023年
３．雑誌名 体育の科学	６．最初と最後の頁 726-730
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 谷釜 尋徳	４．巻 169
２．論文標題 蹴鞠と日本人 ―外来スポーツの受容と成熟の歴史―	５．発行年 2024年
３．雑誌名 本郷	６．最初と最後の頁 31-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 谷釜 尋徳	４．巻 1
２．論文標題 寛政3年の江戸～鎌倉間の遠足について ―近世武士の長距離走の実際―	５．発行年 2024年
３．雑誌名 TOYOスポーツセンター紀要	６．最初と最後の頁 43-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 谷釜尋徳	4．巻 20
2．論文標題 ラザフォード・オールコックが見た 幕末期の江戸のスポーツ	5．発行年 2023年
3．雑誌名 スポーツ健康科学紀要	6．最初と最後の頁 1～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 谷釜尋徳	4．巻 20
2．論文標題 訪日外国人が見た近世日本の旅文化	5．発行年 2023年
3．雑誌名 スポーツ健康科学紀要	6．最初と最後の頁 51～74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 谷釜 尋徳	4．巻 19
2．論文標題 エメ・アンベールが見た幕末期の江戸における武士の武術稽古について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 スポーツ健康科学紀要 = JOURNAL OF SPORT AND HEALTH SCIENCE	6．最初と最後の頁 15～25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34428/00013034	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 谷釜 尋徳	4．巻 31(3)
2．論文標題 江戸のスポーツ産業に関する研究 ―近世日本のスポーツ産業史研究序説―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 スポーツ産業学研究	6．最初と最後の頁 361～374
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5997/sposun.31.3_361	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Hironori Tanigama	４．巻 4
２．論文標題 A Study on the Sports Industry in Edo：Preface to a Study of the History of the Sports Industry in Early Modern Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Japanese Society and Culture	６．最初と最後の頁 45～60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 谷釜尋徳
２．発表標題 江戸庶民の旅と歩行
３．学会等名 地域文化学会 月例研究会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計4件

１．著者名 谷釜　尋徳	４．発行年 2023年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 224
３．書名 スポーツの日本史 ： 遊戯・芸能・武術	

１．著者名 谷釜　尋徳	４．発行年 2023年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 242
３．書名 歩く江戸の旅人たち２　―歴史を動かした人物はどのように歩き、旅をしたのか―	

１．著者名 谷釜　尋徳	４．発行年 2023年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 196
３．書名 江戸の女子旅　―旅はみじかし歩けよ乙女―	

１．著者名 谷釜　尋徳	４．発行年 2021年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 232
３．書名 ボールと日本人	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関